

I . 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、区民意識を把握し、目黒区実施計画の改定を行うにあたっての基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2. 調査内容

本調査は、以下の点について、アンケート形式で調査した。

- ①基本計画に掲げる「施策の基本的方向（23項目）及び基本方針（3項目）」のうち、今後、優先的に取り組むべきと考える施策
- ②基本計画の重点プロジェクトやまち・ひと・しごと総合戦略に掲げる数値目標のうち、区民意識が指標となっている項目
- ③基本計画に掲げる「施策の基本的方向（23項目）」の重要度及び満足度
- ④区政に対する意見・要望

3. 調査設計

- (1) 調査対象 目黒区在住の満18歳以上の男女3,000人
- (2) 抽出台帳 住民基本台帳（平成28年10月1日現在）
- (3) 抽出方法 層化無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送（無記名回収）方式
- (5) 調査期間 平成29年1月6日（金）～平成29年1月27日（金）

4. 回収結果

回収数 1,057（回収率：35.2%）

※締め切り後に回収した調査票については、集計に含めていない。

		満18歳以上人口		意識調査対象者数		有効回収数		
		実数 (人)	構成比 (%)	対象者数 (人)	構成比 (%)	回収数	構成比 (%)	回収率 (%)
合計		239,105	100.0	3,000	100.0	1,057	100.0	35.2
性別	男性	111,803	46.8	1,403	46.8	409	38.7	29.2
	女性	127,302	53.2	1,597	53.2	607	57.4	38.0
	無回答	-	-	-	-	41	3.9	-
年代別	10・20歳代	38,293	16.0	480	16.0	74	7.0	15.4
	30歳代	51,559	21.6	649	21.6	191	18.1	29.4
	40歳代	48,655	20.3	610	20.3	203	19.2	33.3
	50歳代	33,753	14.1	424	14.1	173	16.4	40.8
	60歳代	27,644	11.6	345	11.5	170	16.1	49.3
	70歳以上	39,201	16.4	492	16.4	226	21.4	45.9
	無回答	-	-	-	-	20	1.9	-
居住地区別	北部地区	39,019	16.3	488	16.3	151	14.3	30.9
	東部地区	49,028	20.5	615	20.5	196	18.5	31.9
	中央地区	49,114	20.5	615	20.5	214	20.2	34.8
	南部地区	42,556	17.8	534	17.8	232	21.9	43.4
	西部地区	59,388	24.8	748	24.9	252	23.8	33.7
	無回答	-	-	-	-	12	1.1	-

5. 地区区分

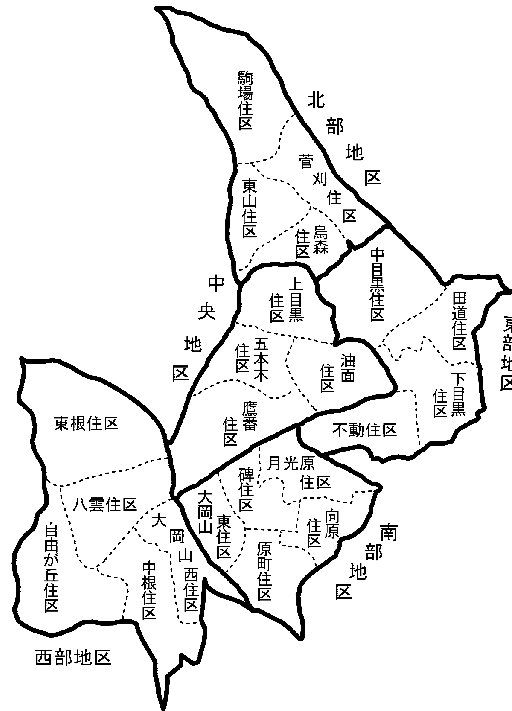


図1 地区区分図

表1 地区・住区・町丁目対応表

地区	住区	区 域
北 部	駒場住区	駒場1～4丁目、大橋2丁目の一部
	菅刈住区	青葉台1～4丁目、大橋1丁目、上目黒1丁目の一部
	東山住区	東山1丁目の一部、同2・3丁目、上目黒5丁目の一部、大橋2丁目の一部
	烏森住区	東山1丁目の一部、上目黒2・3・5丁目の各一部
東 部	中目黒住区	上目黒1～3丁目の各一部、中目黒1～3丁目、同4・5丁目各一部
	田道住区	三田1・2丁目、目黒1丁目、同2・3丁目の各一部、中目黒4丁目の一部
	下目黒住区	目黒2・3丁目の各一部、下目黒1～3丁目
	不動住区	下目黒4～6丁目、目黒本町1丁目
中 央	上目黒住区	上目黒4丁目、中目黒5丁目の一部、五本木1丁目、祐天寺1・2丁目
	油面住区	中目黒5丁目の一部、目黒4丁目、中町1丁目、同2丁目の一部
	五本木住区	五本木2・3丁目、中央町2丁目、中町2丁目の一部
	鷹番住区	中央町1丁目、碑文谷5・6丁目、鷹番1～3丁目
南 部	月光原住区	目黒本町2・4丁目、同3・5・6丁目の各一部
	向原住区	目黒本町3・5・6丁目の各一部、原町1丁目
	碑住区	碑文谷1・2丁目、目黒本町6丁目の一部
	原町住区	原町2丁目、洗足1・2丁目、南1丁目
	大岡山東住区	南2丁目、碑文谷3・4丁目
西 部	大岡山西住区	南3丁目、平町1丁目、同2丁目の一部、大岡山1丁目の一部
	中根住区	大岡山1丁目の一部、同2丁目、緑が丘1・3丁目、中根2丁目、平町2丁目 の一部
	自由が丘住区	緑が丘2丁目、自由が丘1～3丁目、八雲3丁目、中根1丁目の一部
	八雲住区	柿の木坂1丁目、八雲1・2丁目、中根1丁目の一部
	東根住区	柿の木坂2・3丁目、八雲4・5丁目、東が丘1・2丁目

6. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%にならないことがある。
- (2) 図表中の「n」(number of case の略) は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (5) 「Ⅲ. クロス集計による考察」では、「問7 優先的に取り組むべき施策」、「問8 施策の重要度」及び「問9 施策の満足度」に対し、「性別」・「年代別」・「配偶者の有無別」・「就業状況別」について全体結果と比較し、考察を行った。
- (6) クロス集計の結果については、「Ⅵ. 調査結果集計表」に掲載した。
- (7) 重要度と満足度の散布図については、下記の計算式にあるように数段階の評価に点数を与え評価点を算出し、作成している。

$$\begin{array}{l}
 \text{重要度評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重要である」} \times 2 \text{点} \qquad \qquad \qquad + \text{「まあ重要である」} \times 1 \text{点} \\ \text{+ 「あまり重要でない」} \times \blacktriangle 1 \text{点} \qquad \qquad \qquad + \text{「重要でない」} \times \blacktriangle 2 \text{点} \\ \text{+ 「わからない・その他」} \times 0 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数 (無回答を除く)}}
 \end{array}$$

$$\begin{array}{l}
 \text{満足度評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」} \times 2 \text{点} \qquad \qquad \qquad + \text{「まあ満足している」} \times 1 \text{点} \\ \text{+ 「あまり満足していない」} \times \blacktriangle 1 \text{点} \qquad \qquad \qquad + \text{「満足していない」} \times \blacktriangle 2 \text{点} \\ \text{+ 「わからない・その他」} \times 0 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数 (無回答を除く)}}
 \end{array}$$

(8) 標本誤差

標本誤差とは、全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことを指す。

この誤差は、標本の抽出方法や標本数により異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

本調査の回答結果から、母集団（目黒区在住の満 18 歳以上の男女）全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の算出式と早見表を示した。

【標本誤差算出式】

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数（目黒区の満 18 歳以上人口）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 P = 回答比率

【早見表】

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,057	± 1.8	± 2.5	± 2.8	± 3.0	± 3.1
1,000	± 1.9	± 2.5	± 2.9	± 3.1	± 3.2
800	± 2.1	± 2.8	± 3.2	± 3.5	± 3.5
600	± 2.4	± 3.3	± 3.7	± 4.0	± 4.1
400	± 3.0	± 4.0	± 4.6	± 4.9	± 5.0
200	± 4.2	± 5.7	± 6.5	± 6.9	± 7.1

(注1)

Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2)

この表は、ある設問の回答者数が 1,057 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.0%以内ということを表わす。

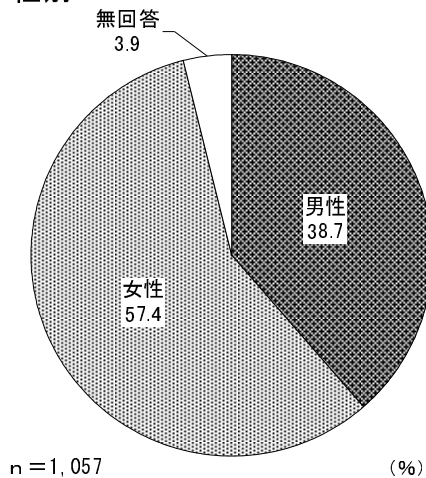
例えば、「平和と人権施策の推進」について、この施策を推進することが重要だと回答した人が全体 (n=1,057) の 30.9%だった。

この場合、標本誤差は±2.8%となり、この施策を推進することが重要だと考えている人の割合は、標本誤差を補正すると、28.1%から 33.7%の間にあることが 95%の信頼度で言えるということを表している。

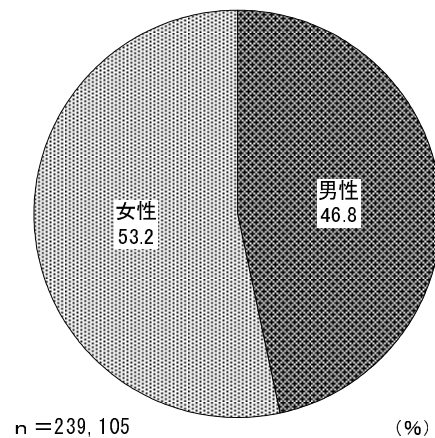
7. 回答者の属性

- ・回答者の性別は、「男性」が38.7%、「女性」が57.4%となっている。
- ・年代は、「70歳以上」が21.4%で最も多く、次いで「40歳代」(19.2%)、「30歳代」(18.1%)となっている。
- ・65歳以上の方の世帯は、「全員65歳以上」が63.6%、「全員65歳以上ではない」が34.3%となっている。
- ・居住地区は、「西部地区」が23.8%で最も多く、次いで「南部地区」(21.9%)、「中央地区」(20.2%)となっている。
- ・婚姻状況は、「既婚(配偶者あり)」が63.6%で最も多く、次いで「未婚」(22.8%)、「既婚(配偶者と離別・死別)」(12.6%)となっている。
- ・配偶者がいる方の就業状況は、「共働き」が46.1%、「共働きでない」が53.0%となっている。
- ・世帯構成は、「親と子(2世代世帯)」が46.5%で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」(26.2%)、「ひとり暮らし世帯」(18.2%)となっている。
- ・子どもの有無は、「小学校入学前の子どもがいる」が12.0%、「小学生・中学生の子どもがいる」が11.0%、「中学校卒業から19歳までの未婚の子どもがいる」が6.8%となっている。

(1) 性別

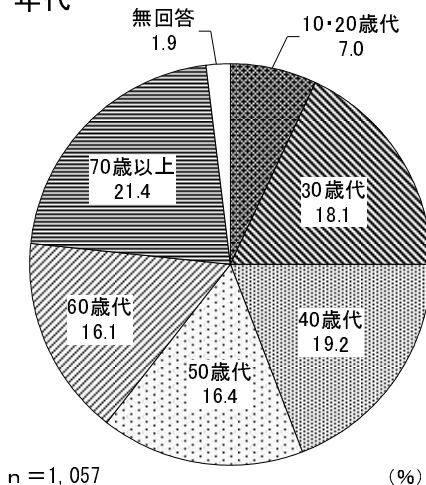


【参考】目黒区の男女別人口比(満18歳以上)

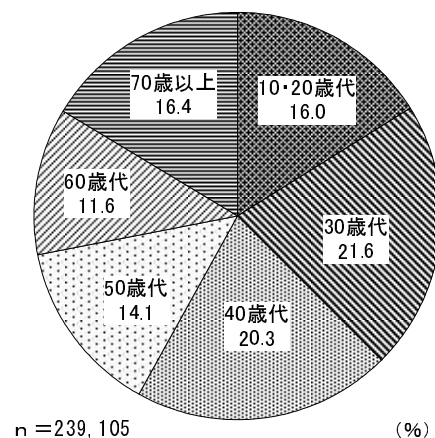


目黒区住民基本台帳(平成28年10月1日現在)より

(2) 年代

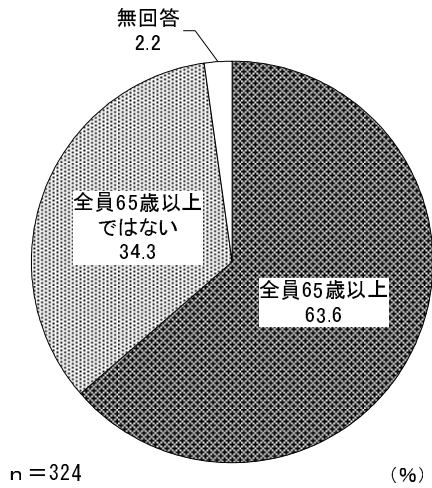


【参考】目黒区の年代別人口比(満18歳以上)

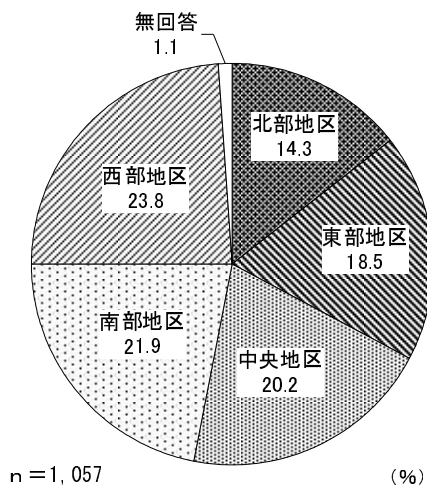


目黒区住民基本台帳(平成28年10月1日現在)より

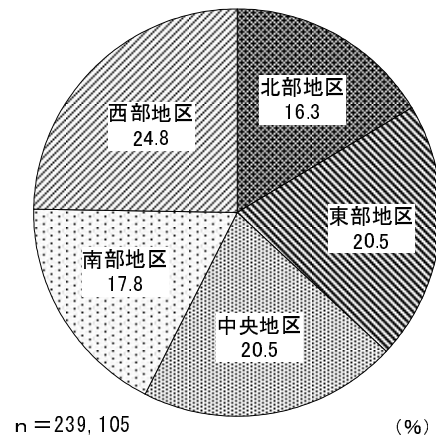
(3) 65歳以上の方の世帯



(4) 居住地区

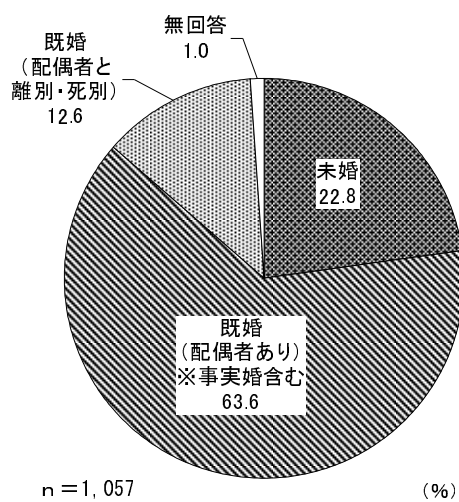


【参考】目黒区の居住地区別人口比 (満18歳以上)

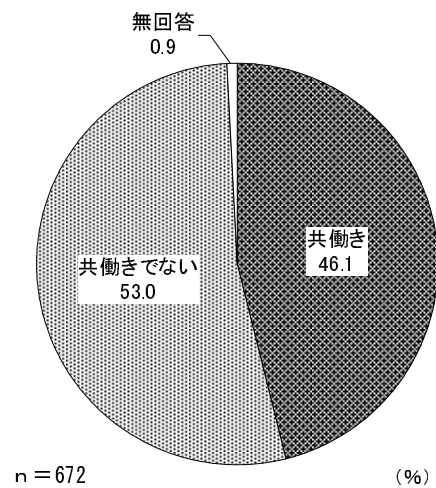


目黒区住民基本台帳 (平成28年10月1日現在) より

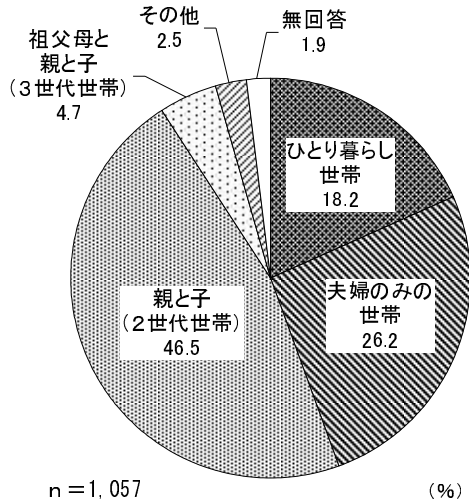
(5) 婚姻状況



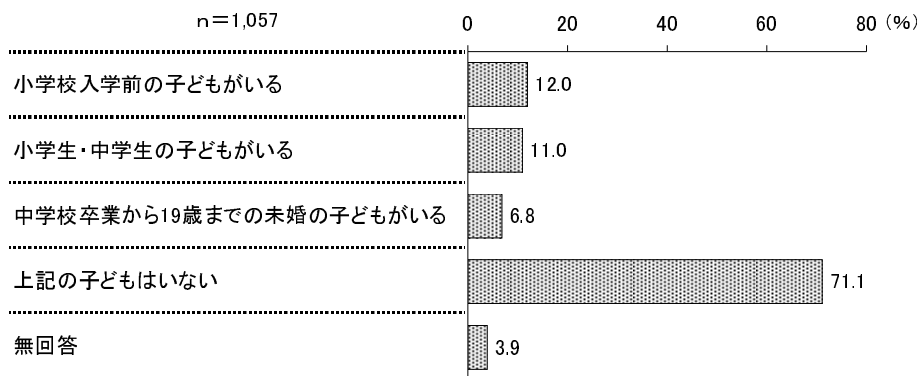
(6) 配偶者がいる方の就業状況



(7) 世帯構成

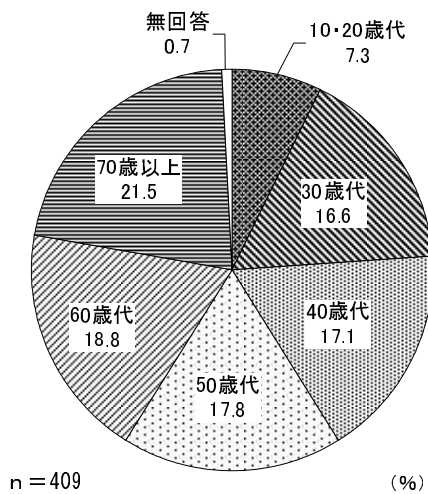


(8) 子どもの有無



(9) 性別に見た年代別構成比

【男性】



【女性】

